

南三陸 復興まちづくり通信

第5号（平成26年11月発行）



一般社団法人 復興みなさん会

復興みなさん会は平成23年10月から、南三陸町内で東日本大震災の復興支援を継続しています。法人化を機会に、町内外の皆さまに活動の内容をご理解いただき、共に地域の再建への道を進んでいくために『南三陸復興まちづくり通信』を毎月発行しています。読者の皆様からの情報、ご意見、ご提案を頂戴できれば幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

伊里前災害公営住宅の完成イメージ図



（図面提供＝松井建設株式会社東北支店）

を見学。集合住宅や戸建て住宅の中に入り、広さや間取り、キッチンや風呂などの設備などについて、担当者の説明を聞きながら見て回りました。

午後には、同じく戸倉の災害公営住宅に入居を予定する住民向けの懇談会が、入谷公営住宅の集会所を会場に行われました。両住宅とも来年度中の入居開始が見込まれています。復興みなさん会のメンバーも、ファシリテータとして懇談会のサポートをさせていただきました。

「くらしの懇談会」で災害公営住宅見学

歌津伊里前地区と戸倉地区で建設が進む災害公営住宅の入居予定者を対象にした「くらしの懇談会」が11月22日に開かれました。

名足復興住宅の集会所で開かれた、伊里前の災害公営住宅に入居を予定する人向けの懇談会には、仮設住宅などで暮らす被災者13世帯が参加。町の担当者から、工事の進捗状況や入居までのスケジュール・手続きなどの説明を受けました。その後、8月から入居が始まった名足復興公営住宅



入谷での「くらしの懇談会」の様子



（港地区の堺団地を見学する参加者たち）

高台移転予定者が先進事例視察

伊里前まちづくり協議会が主催する『高台移転予定者による先進事例視察研修』が11月9日に行われました。研修には、「中学校上」と「柘沢」の両団地への移転を計画する住民など21人が参加。町内の防集団地先行地区で、住宅建設や入居が始まっている藤浜、港地区堺、袖浜の3団地と、美里町の「ゆとりーと小牛田」を視察。100坪の土地への建物の配置や駐車スペース、外構（庭）、隣地境界の処理など敷地利用の具体的な事例について理解を深めました。

復興みなさん会では、トヨタ財団の支援により、東日本大震災で被災し、仮設住宅から災害公営住宅に移る住民のコミュニティづくりのサポートを始めています。町役場と連携しながら入居者向けの交流会の企画や、地域マップの作製などに取り組むとともに、既存のコミュニティとの橋渡しを支援し、住民同士が支え合い、孤立しないような環境づくりを目指します。

8月に入居が始まった「町営名足復興住宅」で11月2日にあった「植樹祭&交流会」では、入居者約30人と地域住民約20人が参加。JHP三島桜プロジェクトや宮城大学などの協力で、住宅の中庭などに桜17本と椿の苗木30本を記念植樹しました。桜は、早咲きで、花期が約1ヶ月と長い河津桜。来春には淡いピンク色の花を咲かせるとのこと。復興住宅自治会の梶原義人会長は「大変ありがたい。花が咲いたら、お花見などのイベントを考えます」と笑顔で話しました。植栽の終了後は集会所に移動。天理教ひのきしん隊の皆さんが炊き出しの食事を提供し、「ちゃんこ鍋」などを食べながら和やかに交流しました。

この日は、入谷の「復興公営住宅」でも同様の交流会が開催され、町内各地からの入居者と地域住民およそ40人が、桜の植樹や会食で親交を深めました。(写真：左は名足の植樹、右は入谷の交流会です。)



災害公営住宅への支援の在り方を学ぶ研修会開催

11月10日、県社会福祉協議会の本間照雄復興支援福祉アドバイザーを講師に迎え、勉強会。災害公営住宅でのコミュニティ構築支援をテーマに講話をいただいたほか、意見交換なども行いました。



講話をする本間照雄アドバイザー

復興みなさん会の総会が開催されました

10月15日、当会の臨時総会が開催されました。5月末の一般社団法人設立に伴う任意団体の解散と事業の引き継ぎ、本年度の事業計画及び収支予算案などについて協議が行われました。



一般社団法人 復興みなさん会

〒986-0751 宮城県本吉郡南三陸町志津川字上の山 26
上山八幡宮 社務所内 minasan.msrk@gmail.com

当法人は、本年度の宮城県震災復興担い手 NPO 等支援事業の助成金を受けて、活動を行っています。